

諏訪地域の発展に尽くした人

坂本養川

せぎ 堰 マップ

坂本養川堰研究会

坂本養川の年表

坂本養川は、今から285年ほど前に田沢村(今の茅野市宮川)という場所で生まれました。

生まれた時の名前は「太郎」、16歳で「市之丞」と名前を変え、48歳のころから「養川」と名のようになりました。

若い頃田沢村の名主をしていた時、水不足により、新田つぶしをせざるを得なかった経験から、せぎを作る決心をしたと言われています。

このあたりの川は、水が少なく、上流でたくさんのお水を田に変えてしまうと、下流にある田の水が不足しました。

人々の生活は苦しく、水あらいが何度もおこり、新田をつぶすこともありました。

水を引きたいという村人たちの願いを実現するため、養川は努力を重ねて、せぎをつくったのです。

持っているのは「六尺棒」といって、長さが六尺(1.8m)あります。この棒で、せぎの幅が六尺になっているか確認するのです。



西暦	年齢	主なできごと	西暦	年齢	主なできごと
1736	1	坂本養川 田沢村に生まれる	1785	50	養川、そのたびごとに、より良い計画におおして、願いは6回めで認められる
1756	21	諏訪の殿様は、水不足のため、新田をつぶし、次の年に畑を田にすることを禁じる	1788	53	養川、せぎづくりのまとも役になる
1758	23	養川、23歳で田沢村の名主となる	1789	54	養川、せぎの土手に風よけのためのカラマツを3000本植える
1762	27	養川、関西に行き、各地の水利用の仕方を見て来る	1792	57	養川、大河原せぎをつくる
1763	28	養川、江戸(今の東京)に出て、測量の方法、せぎのつくり方などの技術を学ぶ	1801	66	養川はたくさんせぎをつくったので、殿様から藩の役人にもなろう。坂本という姓をなると
1764	29	養川、ふたたび名主となる	1804	69	養川、役人をやめ、のんびりくらす
1770	35	雨がふらず、ひでりが続き、あちこちで水あらいがおきる	1809	74	養川、74歳でなくなる
1773	38	養川、病気がなあって、ふたたび江戸に行こうとするが、母に強くとめられる	1992		坂本養川のブロンズ像が尖石縄文考古館の前、滝之湯せぎのほとりに建てられる
1774	39	養川、仲間とともに諏訪地域全体の水の利用について調べる			皆さんの地区にあるせぎが、いつできたかを調べるのじゃ(記入欄)
1775	40	養川、殿様にせぎをつくることをお願いする。願いは、なかなか認められず、8年間に6回におよぶ			
1783	48	養川、最初のせぎである滝之湯せぎをつくる			
1784	49	養川のせぎの計画を知った何者かが、養川を暗殺しようという計画があったらしい			

坂本養川のつくったせぎ

- 1 大河原せぎ
- 2 滝之湯せぎ
- 3 嶋岩せぎ
- 4 柳川三ヶ村せぎ
- 5 坪之端せぎ
- 6 一ノ瀬せぎ
- 7 立場川乙事せぎ
- 8 千ヶ沢新せぎ(小六せぎ)
- 9 程久保せぎ
- 10 棚田せぎ
- 11 鬼場新せぎ
- 12 車沢せぎ
- 13 塩之原せぎ
- 14 上の相之倉せぎ
- 15 矢野倉せぎ

繰り越しせぎのしくみ

滝之湯川をはじめ、北部の川は水がたくさん流れています。養川は、水がたくさん流れている北部の川から、水の少ない川へと水を回すためにせぎをつくりました。これを「繰り越しせぎ」とよんでいます。

1 あつちのせぎから水を引いてこよう

2 こっちの水が少なく なっちゃうよ

3 こっちから水を引いていいよ

4 助かったよ ありがとう

大事なこと、調べることは、仲間と協力してもらったぞ

「繰り越しせぎ」のしくみ

しかし、北部の人たちは、自分たちの水がなくなるのではないかと心配になり、養川の考えに反対しました。

村人の願いをふき出しに書いてみよう

養川は、どの村も水にこまらないうに、諏訪地域全体をたんねんに調べて計画をねり、みんなの協力をよびかけました。

それとともに、養川は高島藩の殿様にせぎをつくるお願いをしました。養川は、良い計画に直しながら、8年間も粘り強くお願いし、6回めで許しをもらいました。

機械のない江戸時代ですから、工事はたいへんでしたが、村の人が全員でせぎを揺るなどして、1年間でつくってしまったせぎもありました。

自然の川を越えるせぎ

八ヶ岳山麓では、自然の川は、東(八ヶ岳)から、西(宮川や上川)に向かって、流れくだっています。養川せぎは、水の多い北部から水の少ない南部に、水をおくのが目的ですから、その途中でいくつもの自然の川を横切っていくかなければなりません。

自然の川を横切って越えていく方法は3種類あります。

1. 川の幅がせまいところは「ダム」が使われます。(写真①)
2. 幅の広いところでは「とい」といって、水を通す橋が使われます。(写真②)
3. 一ノ瀬せぎ 坪之端せぎ 柳川三ヶ村せぎは、「サイフォン」という仕組みで弓振川を越えます。せぎの水はトンネルのように、川の下をくぐっていきますから、地上からはただ川が見えるだけで、何も見えません。

水をける工夫

せぎによって引いてきた水は、いくつかの村に分けられて、その村の田をうるおします。どの村に、どれくらいの水の量を分けるかは、その村でどれくらいのお米ができるか決まるので、それぞれの村にとっては、とても重大な事でした。そのために、決められた量の水をきちんと分ける方法が工夫されて、現在まで使われています。(写真③)

また、それとは逆に、最初から最後まで他の村に水分けないという方法をとるせぎもあります。立場川乙事せぎと千ヶ沢新せぎ(小六せぎ)は写真のように、それぞれのせぎの水がまざらないように、せぎの水路が「立体交差」をしています。(写真④)

尾根を越えるせぎ

地図の中央上のあたりの、霧ヶ峰から茅野市米沢へ向かう地域に、いくつかの養川せぎがあります。上の相之倉せぎ、下の相之倉せぎ、相之倉せぎ(ねむり久保せぎ)です。(写真⑤)

これらのせぎは、茅野横河川の水を増やして諏訪市四賀の普門寺と桑原に水を引いていくために作られました(緑色で示したせぎが2本見えるはずです)。尾根を越えるまでは、等高線に沿ってゆるやかに流れ、尾根の近くではトンネルになっています。(写真⑥)

上川の土手から見ると東側の山の尾根の向こうから水が来るように見えるので、ちょっと不思議な感じがします。

たいへんだった工事

パワーショベルもダンプカーもない時代にせぎをつくるのはたいへんな事でした。特に渋川や柳川は、両側に硬い岩がそり立っている深い谷になっているので、そこに取り入れ口をつくらたり、水を通したりするのは大勢の人と力が必要でした。しかし、その工事をしないと自分たちの村まで水が来ません。村の人はみんな協力して岩をくだいて水をひいてきました。(写真⑦⑧)

●企画・編集・発行 坂本養川堰研究会

●問い合わせ先 諏訪市公民館 長野県諏訪市湖岸通り5-12-18 ☎0266-53-6219

茅野市中央公民館 長野県茅野市宮川4552-2 ☎0266-72-3266

富士見町公民館 長野県諏訪郡富士見町富士見3597-1 ☎0266-62-7900

原村中央公民館 長野県諏訪郡原村枡沢12080 ☎0266-79-7940

このマップは令和3年度長野県地域発元気づくり支援金によって作りました。